

令和6年度 和歌山大学教職大学院運営協議会（第2回） 概要（案）

日 時 令和7年3月13日（木）15:00～16:05
場 所 和歌山大学東3号館 5階 第二会議室（和歌山市栄谷930）
出 席 深野泰宏 和歌山県教育委員会学校教育局長、宮本直周 和歌山市教育委員会学校教育
部学校教育課副課長（和歌山市教育委員会学校教育部長代理）、木村一紀 和歌山
市立伏虎義務教育学校長、田川裕之 教育学研究科長／教授、豊田充崇 教職開発専
攻長／教授（授業実践力向上コース長）、山田真稔 教授（授業実践力向上コース主
任）、須佐宏 准教授（学校改善マネジメントコース長代理）、竹澤大史 准教授（特別
支援教育コース長代理）
欠 席 岸田正幸 和歌山信愛大学教授

概 要

（1）研究科長挨拶

（2）出席者紹介

（3）報 告

①本年度の教職大学院運営実施体制・状況等について

豊田専攻長より、資料1のとおり説明があった。

②教職大学院カリキュラムについて

豊田専攻長、須佐主任並びに山田主任より、パンフレットにより説明があった。

③本年度の入学状況及び募集状況について

豊田専攻長より資料2のとおり説明があった。

状況：第4次募集を実施したが応募者がなく、全体で20名が合格。しかし、1名辞退者が
出て入学者は19名となる。

④ストレートマスターの就職状況について

豊田専攻長より、資料3のとおり説明があった。

状況：1名が在学中に留学し、語学に興味が出て航空会社系列の企業に就職。分母が少ない
ため1名民間企業に就職しただけで教員就職率が大きく下がる。しかし、この学生は
教職への道を諦めた訳ではない。

⑤採用試験状況について

豊田専攻長より、資料4のとおり説明があった。

⑥令和6年度修了時アンケートの結果について

豊田専攻長より、資料5のとおり説明があった。

⑦「小規模校実習」及び「教育実践による地域活性化事業フォーラム」開催報告

豊田専攻長より説明があった。

状況：小学校免許を持っている学生が1名だけであったが、小規模校実習を通じ小学校の現場が面白くなり、小学校免許を取得しようか、と学生から声が出ていた。

⑧「教師力高度化フォーラム」開催報告

豊田専攻長から説明があった。

状況：発表は現職の学生だけで、ストレートマスターの学生は発表はしていないので、今後は必要と考えている。

⑨その他報告（教員採用試験特別選抜者に対する教職大学院の指導について）

豊田専攻長から説明があった。

状況：大学院の授業を一部聴講したり、学校現場の視察研修を行った。令和7年度は、就職するこの学生達に対し、初任者研修的にアフターフォローを行い、次の合格者の研修を行うことになる。

⑩「学校実践支援ユニット」事業報告

豊田専攻長から資料6のとおり説明があった。

（4）質疑応答／協議

（主な質問・意見）

- ・教職大学院のカリキュラムにおいて、同じ校種・教科だけでなく、別の視点で議論できる機会があるか
→全体ミーティングや若手校内研修において、ストレートマスターと現職の学生が一緒になるよう設定している。
- ・和大学の学生が実習で来ることによって、職員も教員になって欲しいという思いなる。また、受け入れることで学校側も学ぶことが多く有難い。引率で来られる大学の先生に困っていることなどを聞くことができる。
- ・和歌山市は子どもの数は毎年400名ほど減るが、先生数は減らない。定年延長も定着し、講師の数も増えているので、教員採用試験は今後厳しい状況にある。
- ・県はこれまで小学校の教員の指導をどのようにしたら良いか、ということで対応していたが、関係部署との議論の中で、今後は小学校・中学校という括りで検討を行い、市町村へも共有していくので、大学の協力が必要。
- ・教職大学院学んだことは、派遣した現職教員だけでなく、学校現場に戻った時に周りにも

広げて欲しいので、大学からも派遣した学生にこのことを話して欲しい。

- ・特別支援や不登校の対応が必要

(5) 閉会

豊田専攻長から閉館の挨拶があった。